

科目名 (英)	一般教養 I (General Education I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	藤村真仁
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 金曜5限
教員の略歴	健康運動指導士 仙台医健・スポーツ&こども専門学校専任教員						
授業の学習内容	2年間、夢に向かって知識・技術を学ぶための、有意義な学校生活・私生活を送るため、学園・学校の考えや規則を理解し、職業人・社会人に求められるマインドやマナーなどこれからの授業で身に付けていくスキルの大切さを説明できるようにする。						
到達目標	2年間の在学期間で、将来の夢をかなえるための有意義な時間の過ごし方を理解し実践できる。 1) 学校のこと(理念、目的、課程、学則、規程、サービス) 2) プロになるために、社会人になるために身につけるべきこと 3) 私生活のこと(体調管理、社会的マナー)						
評価方法と基準	1) 出席状況 60% 2) 提出物 40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/12	講義	建学の理念 が説明できる プロへのビジョン が説明できる	学んだことを振り返る
2	4/19	講義	あいさつ、コミュニケーションの重要性 身だしなみ ポイントが説明できる	学んだことを振り返る
3	4/26	講義	教科課程、単位とシラバス、教育法規 が説明できる	学んだことを振り返る
4	5/10	講義	学則、試験規定、届出、SSC が説明できる	学んだことを振り返る
5	5/17	講義	ホスピタリティとは が説明できる	学んだことを振り返る
6	5/24	講義	パソコン、インターネット メールの使い方 を学ぶ意義が説明できる	学んだことを振り返る
7	5/31	講義	健康診断、健康管理 の重要性や 煙草マナー、ドラッグ 危険性が説明できる	学んだことを振り返る
8	6/14	講義	個人情報、カード、悪徳商法 ストーカー の危険性・対応が説明できる	学んだことを振り返る
9	6/21	講義	雇用形態 や社会人としての身だしなみ が説明できる	学んだことを振り返る
10	6/28	講義	電話マナー、手紙マナー 接遇マナー が説明できる	学んだことを振り返る
11	7/5	講義	食事マナー が説明できる	学んだことを振り返る
12	7/26	講義	弔辞マナー が説明できる	学んだことを振り返る
13	8/30	講義	国際マナー が説明できる	学んだことを振り返る
14	9/6	講義	社会制度、国民年金、健康保険 税金 が説明できる	学んだことを振り返る
15	9/13	講義	情報収集に関すること が説明できる	学んだことを振り返る
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
Handbook of Lifestyle				

科目名 (英)	一般教養Ⅱ (General EducationⅡ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	渡邊友朗
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 火曜・3限
教員の略歴	2006年4月～20017年12月までフィットネスクラブに所属 仙台医健・スポーツ専門学校専任教員						
授業の学習内容	問題を解き、その解説を聞き、正しい答えが導けるようになる。 (推論、図表、分割払い仕事算、速さ・距離・時間、集合、順列・組み合わせ、確率、料金の割引、代金の清算)						
到達目標	職業人・社会人に必要な論理的に考える力を高めることができる。 数学、判断推理、数的推理、図表の問題に答えることができる。						
評価方法と基準	1) 出席状況60% 2) 筆記試験40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	推論Ⅰ の問題に答えられる	問題に答えられなかった点を振り返る
2		講義	推論Ⅱ の問題に答えられる	問題に答えられなかった点を振り返る
3		講義	図表の読み取りⅠ の問題に答えられる	問題に答えられなかった点を振り返る
4		講義	図表の読み取りⅡ の問題に答えられる	問題に答えられなかった点を振り返る
5		講義	分割払い仕事算 の問題に答えられる	問題に答えられなかった点を振り返る
6		講義	速さ・距離・時間Ⅰ の問題に答えられる	問題に答えられなかった点を振り返る
7		講義	速さ・距離・時間Ⅱ の問題に答えられる	問題に答えられなかった点を振り返る
8		講義	集合 の問題に答えられる	問題に答えられなかった点を振り返る
9		講義	順列・組合せⅠ の問題に答えられる	問題に答えられなかった点を振り返る
10		講義	順列・組合せⅡ の問題に答えられる	問題に答えられなかった点を振り返る
11		講義	確率 の問題に答えられる	問題に答えられなかった点を振り返る
12		講義	料金の割引 の問題に答えられる	問題に答えられなかった点を振り返る
13		講義	代金の清算 の問題に答えられる	問題に答えられなかった点を振り返る
14		試験	試験	
15		講義	解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	情報技術Ⅱ ()	必修 選択	必修・選択必修・選択等	年次	2	担当教員	阿部 ちざみ
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	講義・演習・実習等	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 木曜・1限
教員の略歴	Word・Excel・PowerPointの操作方法を専門学校・PCスクール・企業研修・就職支援などで指導						
授業の学習内容	プレゼンテーションツールのPowerPointをの内容の組み立て方、作成手順、資料の探し方などを学習し、他人に自分の考えを伝える効果的な方法を学ぶ。 また、学会での発表用のみではなく、提案事項・会議用ツール・ポスター作成などに活用できる必要なパソコンスキルを学ぶ。						
到達目標	PowerPointの基本操作、プレゼンテーションの流れを自分で組み立て、見栄えのするスライドを作成し、人にわかりやすく伝わる発表技術を身に付け、資料作成・学会発表用ツールとして使用できるレベルを目指す						
評価方法と基準	実技試験30% 課題提出40% 出席点15% 平常点5%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		実習	スライドの基本操作やテーマを設定できる	準備学習 Word・Excelで行った、グラフィックス機能、表作成、グラフ作成などができる方が望ましい 学習課題 積み重ね授業になるので、授業終了後は復習をし、確実に次の時間に活かせることが望ましい
2		実習	スライド内で表やグラフを活用できる	
3		実習	Web上の画像やグラフィックスを扱える	
4		実習	アニメーション効果をかけられる	
5		実習	プリントを参考にスライドを作成する	
6		実習	自己紹介PPを作成する	
7		実習	自己紹介PPを作成する	
8		実習	プレゼンテーションを発表できる	
9		実習	プレゼンテーションを発表できる	
10		実習	プレゼンテーションを発表できる	
11		実習	PPのプレゼン以外の使用方法を学習する	
12		実習	課題作品作成	
13		実習	課題作品作成	
14		試験	実技試験	
15		実習	試験解説	
準備学習 時間外学習			パソコン操作に慣れるためにも時間外にも報告書・課題などパソコンを使用して作成してほしい	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
滋慶出版社 PowerPoint2016				

科目名 (英)	発育発達 (Growth Development)	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	高橋英子
	学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 火曜2,3限
教員の略歴	山形大学医学部助教、東北大学医学部助教、専門学校教員(平成1年～)、薬学博士、博士(医学)						
授業の学習内容	発育段階に応じた身体の機能的変化や適応について学ぶ。 又、発育段階に応じた身体の機能的変化、性差や加齢に伴う体力の低下を理解し、性・年齢に適した運動についても学習する。						
到達目標	健康・体力づくりや競技力向上を目的とした運動指導を行う際には、対象者の年齢や性別など個人の特性を考慮する必要がある。本講義では、人間の出生から乳幼児期、青少年期、成人期、壮年期と言った時間の経過に伴う発育・発達と加齢による身体的変化を考慮した運動トレーニングのあり方について運動生理学的側面から学ぶ。さらには、アスレティックトレーナーや健康運動実践指導者等の資格取得に向けても、関連問題を解ける力を目指す。						
評価方法と基準	定期試験(筆記試験)による評価、60点以上を合格とする						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	オリエンテーション	
2		講義	発育・発達の特徴、形態指数、生理学的年齢について	公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目 I 第7章(P128～)を予習
3		講義	乳児期の発育・発達の特徴	
4		講義	乳児期の動作の獲得について	
5		講義	幼児期の発育・発達の特徴	
6		講義	幼児期の動作の習得について	
7		講義	青少年期の発育・発達の特徴	
8		講義	青少年期の動作の習熟について	
9		講義	発育発達過程とトレーニングの関連	公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目 I 第7章(P142～)を予習
10		講義	発育発達と男女差について	公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目 II 第5章(P128～)を予習
11		講義	成人期と壮年期の形態と体力の変化	公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目
12		講義	老化、高齢期の形態と体力の変化	
13		講義	高齢期における動作と姿勢の変化および	
14		試験	筆記試験	
15		講義	試験解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 ・公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目 I、共通科目 II ・健康運動実践指導者養成用テキスト 健康・体力づくり事業財団 ・随時、資料配布				

科目名 (英)	スポーツ心理学Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	加畑碧
	(Sports Psychology II)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 月曜・1限
学科・コース	スポーツ科学科						
教員の略歴	筑波大学大学院人間総合科学研究科体育学専攻博士前期課程修了						
授業の学習内容	スポーツの指導者に必要とされる心理学の基礎的な知識とその知識を指導場面で活用する方法について学ぶ。また、スポーツ領域における心理的スキルについて学習する。選手やチーム状況に応じた心理的スキルのトレーニング方法を考えられることを目指して、心理的スキルの評価方法や介入指導のあり方について学ぶ。						
到達目標	目標①スポーツ領域の指導者に必要な心理学の知識について説明することができる 目標②指導場面で心理学の知識を活用する方法について説明することができる 目標③スポーツ領域における心理的スキルについて説明することができる 目標④指導場面に応じた心理的スキルのトレーニング方法について考えることができる						
評価方法と基準	1) 定期試験60%, 2) レポート30%, 3) 平常の学習状況10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	「スポーツ心理学とは」について説明できる	配布資料の振り返りレポート
2		講義	競技者に必要な心理的スキルについて説明できる	配布資料の確認、振り返りレポート
3		講義	「やる気」はどのようにして高めればよいかについて説明できる	配布資料の確認、振り返りレポート
4		講義	競技者に必要な「よい緊張感」はどのようにしてつくるのかについて説明できる	配布資料の確認、振り返りレポート
5		講義	集中力はどのようにして高めるのかについて説明できる	配布資料の確認、振り返りレポート
6		講義	自信を高めるためにはどのようなことをすればよいかについて説明できる	配布資料の確認、振り返りレポート
7		講義	競技の作戦はどのようにしてトレーニングすればよいかについて説明できる	配布資料の確認、振り返りレポート
8		講義	競技前の心理的準備や競技後の評価はどのようにすればよいかについて説明できる	配布資料の確認、振り返りレポート
9		講義	チームづくりに必要な心理的要因は何かについて説明できる	配布資料の確認、振り返りレポート
10		講義	競技スポーツではどのような介入指導をすればよいかについて説明できる	配布資料の確認、振り返りレポート
11		講義	スポーツ技術獲得の心理的課題は何かについて説明できる	配布資料の確認、振り返りレポート
12		講義	スポーツで心の健康は高められるかについて説明できる	配布資料の確認、振り返りレポート
13		講義	スポーツ現場における心理的評価の方法について説明できる	配布資料の確認、振り返りレポート
14		試験	学習した内容の問題に答えられる	試験の振り返り
15		講義	学習した内容の問題に答えられる	試験問題解説をもとにした振り返りレポート
準備学習 時間外学習			到達目標を達成するためには、講義に参加するだけでなく、事前に配布する資料を読んで予習しておくこと、資料をもとに講義内容を自分の経験と関連づけてより深く理解するための振り返りが必要である	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
リファレンスブック 公認アスレティックトレーナー専門科目ワークブック スポーツ科学				

科目名 (英)	トレーニング演習 (Designing Effective Training Programs)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	安野努
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 月曜・2,3限
教員の略歴	柔道整復師 アスレティックトレーナー						
授業の学習内容	トレーニングの計画・立案を理解し、トレーニング方法およびプログラムデザインを学ぶ。						
到達目標	体力やその方法について説明、活用ができる。 トレーニングの理論とその方法について説明ができる。 トレーニングの計画とその実際について説明ができる。 運動技術の獲得とその獲得過程について説明ができる。						
評価方法と基準	1)定期試験60% 2)レポート10% 3)出席30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	トレーニングにおける身体の生理的反応について説明できる	ノートをまとめる
2		演習	トレーニング計画・立案について説明できる	ノートをまとめる
3		演習	健康づくりとトレーニングの種類について説明できる	ノートをまとめる
4		演習	トレーニング理論とその方法について説明できる① (自重や身近な用具を使ったトレーニング)	ノートをまとめる
5		演習	トレーニング理論とその方法について説明できる② (筋力トレーニングおよびパワートレーニングの理論と実践)	ノートをまとめる
6		演習	トレーニング計画とその実際について説明できる① (筋力トレーニングおよびパワートレーニングの理論とプログラムデザイン)	ノートをまとめる
7		演習	トレーニング計画とその実際について説明できる② (ウォームアップとクールダウン・柔軟性向上トレーニングの理論と実際)	ノートをまとめる
8		演習	トレーニング計画とその実際について説明できる③ (ウォームアップとクールダウン・柔軟性向上トレーニングのプログラムデザイン)	ノートをまとめる
9		演習	体力テストとその活用ができる① (サーキットトレーニングの理論と実践)	ノートをまとめる
10		演習	体力テストとその活用ができる② (サーキットトレーニングのプログラムデザイン)	ノートをまとめる
11		演習	体力テストとその活用ができる③ (傷害の受傷から復帰までのトレーニングとプログラム)	ノートをまとめる
12		演習	運動技術の獲得とその獲得過程について説明できる①	ノートをまとめる
13		演習	運動技術の獲得とその獲得過程について説明できる②	ノートをまとめる
14		試験	学習した内容の問題に答えられる	ノートをまとめる
15		演習	学習した内容の問題に答えられる	ノートをまとめる
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
公認スポーツ指導者養成テキストⅠ、Ⅲ ワークブックⅠ、Ⅲ JATIトレーニング指導者テキスト				

科目名 (英)	スポーツ医学Ⅲ (Sports Medicine Ⅲ)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	浅沼 達二
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 火曜4限
教員の略歴	S53年岩手医科大学医学部卒業、整形外科医として開院・日本スポーツ協会スポーツドクター						
授業の学習内容	スポーツ外傷・障害についての病体、発生機序、診断方法、画像診断、徒手検査について理解し習得することが出来るようにする。また、年齢、性別によるスポーツ外傷・障害の特徴を理解する。						
到達目標	アスリートのメディカルチェックをして、適性について説明ができる。病名を把握し、それに対するアスレティック・リハビリテーションを施行できる。						
評価方法と基準	筆記によるテスト。授業中質問に答えることが出来る。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	下肢のスポーツ外傷・障害について説明できる	配布資料の予習・復習
2		講義	下肢のスポーツ外傷・障害の病について説明できる態	配布資料の予習・復習
3		講義	下肢のスポーツ外傷・障害の発生機序について説明できる	配布資料の予習・復習
4		講義	下肢のスポーツ外傷・障害の診断方法について説明できる	配布資料の予習・復習
5		講義	下肢のスポーツ外傷・障害の画像診断について説明できる	配布資料の予習・復習
6		講義	下肢のスポーツ外傷・障害の徒手検査について説明できる	配布資料の予習・復習
7		講義	重篤な外傷の病態、発生機序について説明できる	配布資料の予習・復習
8		講義	重篤な外傷について説明できる	配布資料の予習・復習
9		講義	重篤な外傷の診断方法、画像診断について説明できる	配布資料の予習・復習
10		講義	重篤な外傷の徒手検査について説明できる	配布資料の予習・復習
11		講義	年齢、性別によるスポーツ外傷・障害について説明できる	配布資料の予習・復習
12		講義	整形外科的メディカルチェックについて説明できる①	配布資料の予習・復習
13		講義	整形外科的メディカルチェックについて説明できる②	配布資料の予習・復習
14		試験	学習した内容の問題に答えられる	配布資料の予習・復習
15		講義	学習した内容の問題に答えられる	配布資料の予習・復習
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	スポーツ内科学 (Applied Sports Medicine)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	松尾 兼幸
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 金曜・4限
教員の略歴	東海大学医学部卒業、開業医 日本スポーツ協会公認スポーツドクター						
授業の学習内容	スポーツ選手における内科的疾患を理解し、その対処法を身につけるとともに、感染症に対する対応策を説明ができるようになる。また、内科的メディカルチェックについても理解し、説明ができるようになる。						
到達目標	内科疾患などを理解した上で、その疾患に対し配慮ができる運動処方などを作成し、さらにその処方に基づいた指導を行った際の評価方法などを考えることができるようになる。また、内科的疾患などにおける救急時の対応方法、スポーツ医学を取り巻く社会問題などについても理解する。						
評価方法と基準	各授業時間におけるテーマに対する発表内容(出席20%)、内科疾患を理解するうえでの定期筆記試験(60%)及び自らテーマを決めて発表する研究発表会の内容(20%)などを総合的に判定する。時間外実習として、メディカルチェックとしての運動負荷試験を見学し、その目的と流れを理解する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	呼吸循環器系疾患について説明できる	次回のテーマにおける症例について事前に考察しておく
2		講義	消化器系疾患について説明できる	次回のテーマにおける症例について事前に考察しておく
3		講義	血液疾患、腎臓泌尿器系疾患について説明できる	次回のテーマにおける症例について事前に考察しておく
4		講義	感染症に対する対応策について説明できる	次回のテーマにおける症例について事前に考察しておく
5		講義	血液感染症、皮膚感染症について説明できる	次回のテーマにおける症例について事前に考察しておく
6		講義	ウイルス性結膜炎およびその他の感染症について説明できる	次回のテーマにおける症例について事前に考察しておく
7		講義	オーバートレーニング症候群について説明できる	プレゼン準備
8		講義	突然死について説明できる	次回のテーマにおける症例について事前に考察しておく
9		講義	過換気症候群について説明できる	次回のテーマにおける症例について事前に考察しておく
10		講義	高所、低酸素環境下、暑熱環境下、低温環境下での身体への影響について説明できる	次回のテーマにおける症例について事前に考察しておく
11		講義	時差および海外遠征時における諸問題について説明できる	次回のテーマにおける症例について事前に考察しておく
12		講義	内科的メディカルチェックおよびドーピングコントロールについて説明できる	次回のテーマにおける症例について事前に考察しておく
13		講義	女性、高齢者のスポーツ医学について説明できる	プレゼン準備
14		試験	学習した内容の問題に答えられる	
15		講義・発表	学習した内容の問題に答えられる	
準備学習 時間外学習			運動負荷試験の見学	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト④健康管理とスポーツ医学				

科目名 (英)	アスレティックトレーナー講座 (Athletic Training)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	早坂 ひとみ
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 木曜3・4限
教員の略歴	専門学校卒業後柔道整復師として勤務。柔道整復師・日本スポーツ協会アスレティックトレーナー JATI-AATI						
授業の学習内容	アスレティックパフォーマンスを維持、向上させるための外傷予防、応急処置、怪我の再発予防に備えたテーピング、ストレッチング、コンディショニングトレーニングの知識と技術を習得する。また、障害予防における応用的知識や運動プログラムの立案や指導ができる。						
到達目標	・スポーツ現場で起こりうる外傷・障害を予防するために必要なテーピング、ストレッチング、コンディショニング法などの手技の理論を理解し、実践できる。						
評価方法と基準	・筆記テスト ・実技						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	傷害予防のためのテーピングが説明できる	テキストの予習・復習
2		演習	競技種目別テーピング①が実践できる	テキストの予習・復習
3		演習	競技種目別テーピング②が実践できる	テキストの予習・復習
4		演習	競技種目別テーピング③が実践できる	テキストの予習・復習
5		演習	膝関節テーピングが実践できる	テキストの予習・復習
6		演習	足関節テーピングが実践できる	テキストの予習・復習
7		演習	肩鎖関節、前方脱臼などのテーピングが実践できる	テキストの予習・復習
8		演習	応急処置テーピングが実勢できる	テキストの予習・復習
9		演習	スポーツマッサージ①について説明・実践できる	テキストの予習・復習
10		演習	スポーツマッサージ②について説明・実践できる	テキストの予習・復習
11		演習	スポーツマッサージ③について説明・実践できる	テキストの予習・復習
12		演習	RICE処置ができる	テキストの予習・復習
13		演習	重篤な場合の判断と対応ができる	テキストの予習・復習
14		試験	学習した内容の問題に答えられる	
15		演習	学習した内容の問題に答えられる	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
アスレティックトレーナー専門科目テキスト 予防とコンディショニング				

科目名 (英)	測定と評価 I (Movement Screening and Assessment I)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	早坂ひとみ
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 曜日・時限 木曜3・4限
教員の略歴	専門学校卒業後柔道整復師として勤務。柔道整復師・日本スポーツ協会アスレティックトレーナー JATI-AATI						
授業の学習内容	体力の構成要素、その検査、測定と評価方法を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・体力の構成要素を理解し、その測定を実施できる。 ・新体力テストの測定方法を理解し、評価、フィードバックができる。 ・スポーツ動作を分析し、パフォーマンス向上に役立てられる。 ・統計を理解、評価し、そのデータに基づいた運動指導を行うことができる。 						
評価方法と基準	筆記テスト						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	体力の構成要素について説明できる	学んだことを振り返る
2		演習	有酸素能力の検査目的と意義について説明できる	学んだことを振り返る
3		演習	有酸素能力の測定および評価について説明できる	学んだことを振り返る
4		演習	敏捷性の検査目的と意義について説明できる	学んだことを振り返る
5		演習	敏捷性の測定および評価について説明できる	学んだことを振り返る
6		演習	スポーツ動作の観察および分析方法について説明できる	学んだことを振り返る
7		演習	歩行動作による障害発生メカニズムについて説明できる	学んだことを振り返る
8		演習	走行動作による障害発生メカニズムについて説明できる	学んだことを振り返る
9		演習	切り返し動作による障害メカニズムについて説明できる	学んだことを振り返る
10		演習	跳動作による障害発生メカニズムについて説明できる	学んだことを振り返る
11		演習	投動作による障害発生メカニズムについて説明できる	学んだことを振り返る
12		演習	コンタクトスポーツによる障害発生メカニズムについて説明できる①	学んだことを振り返る
13		演習	コンタクトスポーツによる障害発生メカニズムについて説明できる②	学んだことを振り返る
14		試験	学習した内容の問題に答えられる	
15		演習	学習した内容の問題に答えられる	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
アスレティックトレーナー専門科目テキスト 検査・測定と評価				

科目名 (英)	測定と評価Ⅱ (Movement Screening and Assessment Ⅱ)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	早坂ひとみ
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 曜日・時限 木曜3・4限
教員の略歴	専門学校卒業後柔道整復師として勤務。柔道整復師・日本スポーツ協会アスレティックトレーナー JATI-AATI						
授業の学習内容	アスレティックトレーナーにとって必要とされる評価法についての意義と考え方を説明できる。また、評価による問題点の抽出から問題改善へのプロセスを理解し、説明ができる。更に、評価を進める上で必要とされる検査測定手技について実践ができる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・測定、評価の意義、目的を理解し、実践できる。 ・身体機能の測定、評価を行い、得られたデータを分析できる。 ・身体機能の測定、評価で得られたデータをフィードバックできる。 						
評価方法と基準	筆記テスト						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	評価の目的、意義および役割について説明できる	学んだことを振り返る
2		演習	機能評価方法について説明できる	学んだことを振り返る
3		演習	検査方法Ⅰ(アライメントテスト)について実践できる	学んだことを振り返る
4		演習	検査方法Ⅱ(関節可動域テスト)について実践できる	学んだことを振り返る
5		演習	検査方法Ⅲ(関節弛緩性テストⅠ)について実践できる	学んだことを振り返る
6		演習	検査方法Ⅳ(関節弛緩性テストⅡ)について実践できる	学んだことを振り返る
7		演習	検査方法Ⅴ(タイトネステストⅠ)について実践できる	学んだことを振り返る
8		演習	検査方法Ⅵ(タイトネステストⅡ)について実践できる	学んだことを振り返る
9		演習	検査方法Ⅶ(徒手筋力テストⅠ)について実践できる	学んだことを振り返る
10		演習	検査方法Ⅷ(徒手筋力テストⅡ)について実践できる	学んだことを振り返る
11		演習	検査方法Ⅷ(身体組成Ⅰ)について実践できる	学んだことを振り返る
12		演習	検査方法Ⅷ(身体組成Ⅱ)について実践できる	学んだことを振り返る
13		演習	機能評価に基づくコンディショニングの目標設定とプログラム立案ができる	学んだことを振り返る
14		試験	学習した内容の問題に答えられる	
15		演習	学習した内容の問題に答えられる	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
アスレティックトレーナー専門科目テキスト 検査・測定と評価				

科目名 (英)	コンディショニング理論演習Ⅱ (Seminar of Strength and Conditioning II)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	早坂ひとみ
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 曜日・時限 木曜3・4限
教員の略歴	専門学校卒業後柔道整復師として勤務。柔道整復師・日本スポーツ協会アスレティックトレーナー JATI-AATI						
授業の学習内容	マシン、フリーウェイト、といったレジスタンストレーニング方法や正しい運動のフォームを理解し、人に説明や指導をすることができる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・トレーニング方法を習得する目的を理解する。 ・マシン、フリーウェイトを使ったレジスタンストレーニングの方法や正しい運動のフォームを理解し、指導できる。 						
評価方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記テスト ・実技 						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	トレーニング方法を習得する目的と目標を説明できる	学んだことを振り返る
2		演習	自体重およびチューブを利用した、トレーニングが実践できる①	学んだことを振り返る
3		演習	自体重およびチューブを利用した、トレーニングが実践できる②	学んだことを振り返る
4		演習	自体重およびチューブを利用した、トレーニングが実践できる③	学んだことを振り返る
5		演習	自体重およびチューブを利用した、トレーニングが実践できる④	学んだことを振り返る
6		演習	フリーウェイトを活用した各上肢および下肢の種目が説明・実践できる①	学んだことを振り返る
7		演習	フリーウェイトを活用した各上肢および下肢の種目が説明・実践できる②	学んだことを振り返る
8		演習	フリーウェイトを活用した各上肢および下肢の種目が説明・実践できる③	学んだことを振り返る
9		演習	フリーウェイトを活用した各上肢および下肢の種目が説明・実践できる④	学んだことを振り返る
10		演習	マシンを活用した上肢および下肢の種目が説明・実践できる①	学んだことを振り返る
11		演習	マシンを活用した上肢および下肢の種目が説明・実践できる②	学んだことを振り返る
12		演習	各トレーニング種目が説明・指導できる①	学んだことを振り返る
13		演習	各トレーニング種目が説明・指導できる②	学んだことを振り返る
14		試験	学習した内容の問題に答えられる	
15		演習	学習した内容の問題に答えられる	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
アスレティックトレーナー専門科目テキスト 予防とコンディショニング				

科目名 (英)	アスレティックリハビリテーション I (Athletic Rehabilitation I)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	1	担当教員	渡会 稔
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 ●曜●限
教員の略歴	1999年JSPO-AT取得 2009年～2014年仙台大学 体育学部 体育学科 助教						
授業の学習内容	子どもから高齢者の健康維持の増進や、競技者の競技復帰において基盤となるアスレティックリハビリテーション、各療法の知識、技術を習得する。						
到達目標	①アスレティックリハビリテーションの概要を理解する ②アスレティックリハビリテーションに必要な知識、技術を理解する						
評価方法と基準	1)定期試験60% 2)レポート10% 3)出席30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	9/30	演習	アスレティックリハビリテーションの考え方を理解する	アスレティックリハビリテーションの概要をまとめる
2	9/30	演習	上肢の解剖学的運動を理解する	上肢の機能解剖をまとめる
3	10/21	演習	上肢のアスレティックリハビリテーションを理解する	上肢のアスレティックリハビリテーションをまとめる
4	10/28	演習	上肢の関節可動域測定を理解する	上肢の関節可動域測定の方法をまとめる
5	11/11	演習	上肢のMMTを理解する	上肢のMMTをまとめる
6	11/18	演習	まとめ	
7	11/25	演習	下肢の解剖学的運動を理解する	下肢の機能解剖をまとめる
8	12/2	演習	下肢のアスレティックリハビリテーションを理解する	下肢のアスレティックリハビリテーションをまとめる
9	12/9	演習	下肢の関節可動域測定を理解する	下肢の関節可動域測定の方法をまとめる
10	12/16	演習	下肢のMMTを理解する	下肢のMMTをまとめる
11	12/23	演習	まとめ	
12	1/20	演習	物理療法について理解する	物理療法の概要をまとめる
13	1/27	演習	補装具について理解する	補装具の概要をまとめる
14	2/3	試験	定期試験	
15	2/10	演習	まとめ	
準備学習 時間外学習			授業の復習として各講義のポイントをまとめる	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑦アスレティックリハビリテーション				

科目名 (英)	アスレティックリハビリテーションⅢ (Athletic Rehabilitation Ⅲ)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	千葉渉
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 金曜・1,2限
教員の略歴	医療法人松田会 松田病院にて理学療法士として勤務、日本スポーツ協会アスレティックトレーナー						
授業の学習内容	子どもから高齢者の健康維持の増進や、競技者の競技復帰において基盤となるアスレティックリハビリテーション、各療法の知識、技術を習得する。種目運動別のアスレティックリハビリテーションプログラムの計画、立案、実践の方法を理解する。						
到達目標	①アスレティックリハビリテーションに必要な知識、技術を理解する ②種目運動別アスレティックリハビリテーションプログラムの計画、立案ができるようになる ③種目運動別アスレティックリハビリテーションプログラムを実践できるようになる						
評価方法と基準	1)定期試験60% 2)レポート10% 3)出席30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	受傷直後、急性期の対応を理解する	外傷の急性期の対応をまとめる
2		演習	亜急性期のアスレティックリハビリテーションを理解する	亜急性期のアスレティックリハビリテーションをまとめる
3		演習	慢性期初期のアスレティックリハビリテーションを理解する	慢性期初期のアスレティックリハビリテーションをまとめる
4		演習	慢性期中期のアスレティックリハビリテーションを理解する	慢性期中期のアスレティックリハビリテーションをまとめる
5		演習	慢性期後期のアスレティックリハビリテーションを理解する	慢性期後期のアスレティックリハビリテーションをまとめる
6		演習	機能回復期のアスレティックリハビリテーションを理解する	機能回復期のアスレティックリハビリテーションをまとめる
7		演習	オーバーユースによる傷害と対処を理解する	オーバーユースによる傷害と対処をまとめる
8		演習	種目運動別アスレティックリハビリテーションの実例①を理解する	陸上、水泳のアスレティックリハビリテーションの実例をまとめる
9		演習	種目運動別アスレティックリハビリテーションの実例②	サッカー、バスケットボールのアスレティックリハビリテーションの実例をまとめる
10		演習	種目運動別アスレティックリハビリテーションの実例③	バレーボール、ハンドボールのアスレティックリハビリテーションの実例をまとめる
11		演習	種目運動別アスレティックリハビリテーションの実例④	野球、ラグビーのアスレティックリハビリテーションの実例をまとめる
12		演習	種目運動別アスレティックリハビリテーションの実例⑤	格闘技、体操のアスレティックリハビリテーションの実例をまとめる
13		演習	種目運動別アスレティックリハビリテーションの実例⑥	スキー、スケートのアスレティックリハビリテーションの実例をまとめる
14		試験	定期試験	
15		演習	まとめ	
準備学習 時間外学習			授業の復習として各講義のポイントをまとめる	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑦アスレティックリハビリテーション				

科目名 (英)	現場実習 (Internship program)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	渡会 稔
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分	集中
教員の略歴	1999年日本スポーツ協会アスレティックトレーナー取得 2009年～2014年仙台大学 体育学部 体育 学科 助教 プロバスケットボールチームトレーナーを歴任						
授業の学習内容	① 公認ATのもとアスレティックリハビリテーションプログラムの指導法を理解する ② 公認ATのもとATの業務全般を理解する						
到達目標	① 公認ATのもとアスレティックリハビリテーションプログラムを指導できるようになる ② 公認ATのもとATの業務全般を指導できるようになる						
評価方法と基準	実習内容、学習内容を実習報告書に記録する。実習報告書提出者に単位を認定する						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	実習	足関節におけるアスレティックリハビリテーションの指導法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
2	/	実習	膝関節におけるアスレティックリハビリテーションの指導法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
3	/	実習	股関節におけるアスレティックリハビリテーションの指導法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
4	/	実習	腰部におけるアスレティックリハビリテーションの指導法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
5	/	実習	肩関節におけるアスレティックリハビリテーションの指導法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
6	/	実習	肘関節におけるアスレティックリハビリテーションの指導法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
7	/	実習	手関節におけるアスレティックリハビリテーションの指導法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
8	/	実習	頸部におけるアスレティックリハビリテーションの指導法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
9	/	実習	バスケットボールの外傷におけるアスレティックリハビリテーションの指導法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
10	/	実習	バスケットボールの障害におけるアスレティックリハビリテーションの指導法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
11	/	実習	ウォーミングアップの指導法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
12	/	実習	クールダウンの指導法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
13	/	実習	栄養面からのコンディショニングの指導法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
14	/	実習	疲労回復を目的としたコンディショニングの指導法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
15	/	実習	ウェイトトレーニングの指導法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
準備学習 時間外学習			復習として実習内容のポイントをまとめる	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨				

科目名 (英)	現場実習 (Internship program)		必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	渡会 稔
	学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分	集中
教員の略歴	1999年日本スポーツ協会アスレティックトレーナー取得 2009年～2014年仙台大学 体育学部 体育 学科 助教 プロバスケットボールチームトレーナーを歴任							
授業の学習内 容	① 公認ATのもとアスレティックリハビリテーションプログラムの指導法を理解する ② 公認ATのもとATの業務全般を理解する							
到達目標	① 公認ATのもとアスレティックリハビリテーションプログラムを指導できるようになる ② 公認ATのもとATの業務全般を指導できるようになる							
評価方法と基準	実習内容、学習内容を実習報告書に記録する。実習報告書提出者に単位を認定する							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	実習	アジリティトレーニングの指導法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
2	/	実習	代謝系トレーニングの指導法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
3	/	実習	メディカルチェックの実施方法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
4	/	実習	フィットネスチェックの実施方法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
5	/	実習	フィールドテストの実施方法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
6	/	実習	身体組成測定の実施方法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
7	/	実習	柔軟性テストの実施方法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
8	/	実習	各競技におけるアスレティックリハビリテーションの プログラム作成を理解する①	学んだことを報告書にまとめる
9	/	実習	各競技におけるアスレティックリハビリテーションの プログラム作成を理解する②	学んだことを報告書にまとめる
10	/	実習	各競技におけるアスレティックリハビリテーションの プログラム作成を理解する③	学んだことを報告書にまとめる
11	/	実習	各競技におけるアスレティックリハビリテーションの プログラム作成を理解する④	学んだことを報告書にまとめる
12	/	実習	各競技におけるアスレティックリハビリテーションの プログラム作成を理解する⑤	学んだことを報告書にまとめる
13	/	実習	各競技におけるアスレティックリハビリテーションの プログラム作成を理解する⑥	学んだことを報告書にまとめる
14	/	実習	各競技におけるアスレティックリハビリテーションの プログラム作成を理解する⑦	学んだことを報告書にまとめる
15	/	実習	各競技におけるアスレティックリハビリテーションの プログラム作成を理解する⑧	学んだことを報告書にまとめる
準備学習 時間外学習			復習として実習内容のポイントをまとめる	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨				

科目名 (英)	現場実習	必修 選択	コース 必修	年次	2	担当教員	渡会 稔
	(Athletic Trainer Internship program)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分	集中
学科・コース	スポーツ科学科						
教員の略歴	1999年日本スポーツ協会アスレティックトレーナー取得 2009年～2014年仙台大学 体育学部 体育 学科 助教 プロバスケットボールチームトレーナーを歴任						
授業の学習内 容	① 公認ATのもと見学実習を通じてATの業務を理解する ② 公認ATのもと検査・測定と評価の目的、方法を理解する ③ 公認ATのもとアスレティックリハビリテーションプログラム作成の目的、方法を理解する						
到達目標	① ATの業務を理解し、業務が遂行できるようになる ② 検査・測定と評価の目的、方法を理解し、実践できるようになる ③ アスレティックリハビリテーションプログラム作成の目的、方法を理解し、プログラム作成ができるよ うになる						
評価方法と基準	実習内容、学習内容を実習報告書に記録する。実習報告書提出者に単位を認定する						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		実習	スポーツ現場実習および総合実習	学んだことを報告書にまとめる
2		実習	スポーツ現場実習および総合実習	学んだことを報告書にまとめる
3		実習	スポーツ現場実習および総合実習	学んだことを報告書にまとめる
4		実習	スポーツ現場実習および総合実習	学んだことを報告書にまとめる
5		実習	スポーツ現場実習および総合実習	学んだことを報告書にまとめる
6		実習	スポーツ現場実習および総合実習	学んだことを報告書にまとめる
7		実習	スポーツ現場実習および総合実習	学んだことを報告書にまとめる
8		実習	スポーツ現場実習および総合実習	学んだことを報告書にまとめる
9		実習	スポーツ現場実習および総合実習	学んだことを報告書にまとめる
10		実習	スポーツ現場実習および総合実習	学んだことを報告書にまとめる
11		実習	スポーツ現場実習および総合実習	学んだことを報告書にまとめる
12		実習	スポーツ現場実習および総合実習	学んだことを報告書にまとめる
13		実習	スポーツ現場実習および総合実習	学んだことを報告書にまとめる
14		実習	スポーツ現場実習および総合実習	学んだことを報告書にまとめる
15		実習	スポーツ現場実習および総合実習	学んだことを報告書にまとめる
準備学習 時間外学習			復習として実習内容のポイントをまとめる	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨				

科目名 (英)	ジュニアスポーツ指導員 (Junior Sports Instructor)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	渡会 稔
	学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	1999年日本スポーツ協会アスレティックトレーナー取得 2009年～2014年仙台大学 体育学部 体育学科 助教 プロバスケットボールチームトレーナーを歴任						
授業の学習内容	子どもにとって幼い頃のスポーツや運動との関わりは、その後の人格形成や身体づくり、健康の維持向上など生涯にわたって大きな影響を与える。その指導者には子どもとスポーツに対する正しい知識とその知識を活かした指導を実践する能力が求められる。この授業では「ジュニアスポーツ指導員」として身に付けるべき知識を学ぶ。						
到達目標	日本スポーツ協会「ジュニアスポーツ指導員」の資格試験で合格ができる知識がある。 ジュニアスポーツ動員の役割と指導の在り方について説明ができる。 ジュニア期に応じた遊び・スポーツについて指導プログラムが作成でき、指導ができる。						
評価方法と基準	1)定期試験60% 2)レポート10% 3)出席30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	ジュニアスポーツ指導員 概論 ～ジュニア期のスポーツ指導(コーチング)の在り方～	ノートにまとめる
2		講義	ジュニアスポーツ指導員 概論 ～ジュニア期のスポーツ指導(コーチング)の在り方～	ノートにまとめる
3		講義	コーチング ～コミュニケーションと指導のポイント～	ノートにまとめる
4		講義	コーチング ～プログラム作成、安全管理、ケーススタディ～	ノートにまとめる
5		講義	子どもの発育・発達 ～ジュニア期の体格の発育理解と体力～	ノートにまとめる
6		講義	動きの発達 ～ジュニア期の動きの発育理解と個々への指導の実際～	ノートにまとめる
7		講義	子どもとスポーツ心理 ～心の発育発達と子どもの心の特徴・メンタルマネジメント～	ノートにまとめる
8		講義	子どもの栄養と食事 ～発育・発達と食事の関係、栄養管理・摂取、水分補給～	ノートにまとめる
9		講義	スポーツ医学 ～からだの仕組みと、スポーツと内科的疾患、外傷、障害～	ノートにまとめる
10		講義	スポーツ医学 ～スポーツ外傷、障害とその予防～	ノートにまとめる
11		講義	女性とスポーツ ～女性の特徴とスポーツの関係、諸問題～	ノートにまとめる
12		講義	ジュニアスポーツ指導員 資格 まとめ	ノートにまとめる
13		講義	ジュニアスポーツ指導員 資格 まとめ	ノートにまとめる
14		試験		
15		演習	まとめ	
準備学習 時間外学習			授業の復習として各講義のポイントをまとめる	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
公認ジュニアスポーツ指導員専門科目テキスト				

科目名 (英)	コーチング論 (Coaching of Sports)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	藤本 敏彦
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 金曜3限
教員の略歴	1990年鹿屋体育大学修士課程修了後、東北大学にて勤務 准教授						
授業の学習内容	指導者として必要なコーチングスキルについて実践と講義を通して学ぶ						
到達目標	競技者のモチベーションを高めるコーチング法を実践できる。 子どもへの適切なコーチングが実践できる。 チームマネージメントが行える。						
評価方法と基準	定期試験 100%、 授業時の居眠り、雑談等は教員の判断で減点。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	競技集団の構造と指導者について説明できる	講義の復習
2		演習	発育発達過程におけるコーチと選手の関係について説明できる①	講義の復習
3		演習	発育発達過程におけるコーチと選手の関係について説明できる②	講義の復習
4		演習	発育発達過程におけるコーチと選手の関係について説明できる③	講義の復習
5		演習	指導者の役割と機能について説明できる①	講義の復習
6		演習	指導者の役割と機能について説明できる②	講義の復習
7		演習	コーチングに求められる資質と能力① ～捉え方、着眼点について～ について説明できる	講義の復習
8		演習	コーチングに求められる資質と能力② ～観察力と分析力～ について説明できる	講義の復習
9		演習	コーチングに求められる資質と能力③ ～論理的言語技術、表現力～ について説明できる	講義の復習
10		演習	コーチングに求められる資質と能力④ ～計画力、実践力～ について説明できる	講義の復習
11		演習	コーチングに求められる資質と能力⑤ ～評価能力、マネジメント能力～ について説明できる	講義の復習
12		演習	競技種目別コーチングの特徴 について説明できる①	講義の復習
13		演習	競技種目別コーチングの特徴 について説明できる②	講義の復習
14		演習	競技種目別コーチングの特徴 について説明できる③	自主採点
15		演習	生涯スポーツ分野におけるコーチング について説明できる	試験内容の復習
準備学習 時間外学習			配付資料の完成	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
ジュニアスポーツ指導員専門科目テキスト				

科目名 (英)	レクリエーション演習 (Instructional Methods of Recreation)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	伊藤枝里奈
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 水曜・1限
教員の略歴	スポーツ系大学院修士課程修了 こどもの運動指導に従事						
授業の学習内容	レクリエーションの指導者・支援者として必要な実技を体験学習し、習得する。						
到達目標	レクリエーションについて説明ができる。 各種運動やニュースポーツなどを指導する際、アイスブレイキングやレクリエーション運動などを計画し、実践指導することができる。						
評価方法と基準	1)授業用ノート100% (授業内での課題、実践指導の評価、出席などの記録など全ての記載を総合的に評価)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	オリエンテーション ～レクリエーションとは何か～	
2		演習	レクリエーションの基礎理論① ～社会とレクリエーション運動～	ノートまとめ
3		演習	レクリエーションの基礎理論② ～レクリエーションの理解と歴史～	ノートまとめ
4		演習	レクリエーション支援の理論	ノートまとめ
5		演習	アイスブレイキング①	ノートまとめ
6		演習	アイスブレイキング②	ノートまとめ
7		演習	ニュースポーツ①	ノートまとめ
8		演習	ニュースポーツ②	ノートまとめ
9		演習	ニュースポーツ③	ノートまとめ
10		演習	ニュースポーツ④	ノートまとめ
11		演習	野外活動①	ノートまとめ
12		演習	野外活動②	ノートまとめ
13		演習	レクリエーションゲーム指導案①	ノートまとめ
14		試験	レクリエーションゲーム指導案②	ノートまとめ
15		演習	実技テスト	ノートまとめ
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	総合型地域スポーツクラブ演習 (Internship Program)		必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	渡会 稔
	学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 集中
教員の略歴	1999年日本スポーツ協会アスレティックトレーナー取得 2009年～2014年仙台大学 体育学部 体育 学科 助教 プロバスケットボールチームトレーナーを歴任							
授業の学習内 容	指導計画書を作成し、その計画書に基づきプレゼンテーションを行なう。							
到達目標	総合型地域スポーツクラブで指導の計画および実践ができる。 また、その活動についてワード・パワーポイントを使用し報告会ができる。							
評価方法と基準	1)発表 2)提出物							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	オリエンテーション キッツスポーツクラブ総合実習の目的、予定、 クラブへの挨拶について	ノートにまとめる
2		演習	キッツスポーツクラブ総合実習の心得 活動中に発生する怪我の予防と安全管理、報告、連絡、相談の重要 性	ノートにまとめる
3		演習	キッツスポーツクラブ総合実習の指導計画作成 実習日誌(報告書)の書き方、	ノートにまとめる
4		演習	指導計画Ⅰ(走る・跳ぶ遊びを中心に)	ノートにまとめる
5		演習	指導計画Ⅱ(投げる・回る遊びを中心に)	ノートにまとめる
6		演習	指導計画Ⅲ(サッカー・ボール遊びを中心に)	ノートにまとめる
7		演習	指導計画Ⅳ(一人や二人でできる遊びを中心に)	ノートにまとめる
8		演習	指導計画Ⅴ(集団・表現遊びを中心に)	ノートにまとめる
9		演習	コーディネーション指導Ⅰ (用具を使わないもの、マット運動、平均台、跳び箱、鉄棒、ボール)	ノートにまとめる
10		演習	コーディネーション指導Ⅱ (身体の定位・反応能力、バランス・リズム感覚)	ノートにまとめる
11		演習	コーディネーション指導Ⅲ (分化・変換能力)	ノートにまとめる
12		演習	演習(指導)の振り返り 御礼状の書き方	ノートにまとめる
13		演習	実習報告会準備 パワーポイント、抄録作成	ノートにまとめる
14		試験	実習報告会(1人6分、質疑応答2分)	ノートにまとめる
15		演習	まとめ 感想レポート作成	ノートにまとめる
準備学習 時間外学習			授業の復習として各講義のポイントをまとめる	
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	障がい者スポーツ初級指導員講座 (Training for the Disabilities)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	佐藤一樹
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 月曜1・2限
教員の略歴	上級障がい者スポーツ指導員、障がい者フライングディスク第1種審判員						
授業の学習内容	「初級障がい者スポーツ指導員」養成講習会での講習科目に沿い、障がい者福祉施策と障がい者スポーツ、ボランティア論、障がい者スポーツの意義と理念、安全管理、障がいの理論とスポーツ、公認障がい者スポーツ指導者制度、全国障害者スポーツ大会の概要、障がいに応じたスポーツの工夫・実施、障がい者との交流について学習し、説明・実践ができるようになる。						
到達目標	「初級障がい者スポーツ指導員」として認定される。 障がい者の基本内容を理解し、スポーツの導入に必要な基本的知識・技術を身につけ、実践にあたっては、健康や安全管理を重視したしどろができる。さらに、地域の大会や行事に参加すると共に、指導員組織の事業にも積極的に参加するなど地域の障がい者スポーツの振興を支えることができる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト30% 2) 出席状況30% 3) 実技演習30% 4) ボランティア意欲10% ※その他、障がいに応じたスポーツ・レクリエーションの工夫について加味します。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10/7	演習	障がい者の福祉施策と障がい者スポーツについて説明できる	学んだことを振り返る
2	10/7	演習	ボランティア論について説明できる ～視覚障害者スイマー～	学んだことを振り返る
3	10/21	演習	障がい者スポーツの意義と理念について説明できる	学んだことを振り返る
4	10/21	演習	障がいの理解とスポーツ:身体障害 ウイニングパス を体験する	学んだことを振り返る
5	10/28	演習	障がいに応じたスポーツの工夫・実施ができる(1)	学んだことを振り返る
6	10/28	演習	障がいに応じたスポーツの工夫・実施ができる(2)	学んだことを振り返る
7	11/11	演習	障がい者との交流をする	学んだことを振り返る
8	11/11	演習	障がい者の理解とスポーツ:視覚障害	学んだことを振り返る
9	11/18	演習	安全管理ができる	学んだことを振り返る
10	11/18	演習	全国障がい者スポーツ大会の概要が説明できる	学んだことを振り返る
11	11/25	演習	障がいの理解とスポーツ:精神障害 バレーボール を体験する	学んだことを振り返る
12	11/25	演習	障がいの理解とスポーツ:脳性麻痺 ボッチャ を体験する	学んだことを振り返る
13	12/2	演習	障がい者スポーツ指導者制度について説明できる	学んだことを振り返る
14	12/2	試験	定期試験	
15	12/9	演習	試験解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	スタジオプログラム	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	金森千穂
	(Studio Program)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 月曜・3限 木曜・1限
学科・コース	スポーツ科学科						
教員の略歴	JAJFA-GFIエグゼクティブ シナプソロジーアドバンス教育トレーナー 介護予防運動指導員 バランスコーディネーション教育トレーナー 健康運動実践指導者						
授業の学習内容	グループエクササイズ指導の定義や指導者の役割が説明できる。 グループエクササイズを指導する上で必要な準備ができる。また、指導の循環や、参加者のことを考えた指導が実践できる。						
到達目標	グループエクササイズができるようになるためのスタジオプログラムの基礎を学習する。						
評価方法と基準	1) 筆記試験30% 2) 実技試験30% 3) 出席状況40%						

授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)		
1		演習	グループエクササイズ指導の定義と指導者の役割 グループエクササイズ指導とは？ インストラクターの役割と健康・体力づくり運動の条件		学んだことを振り返る		
2		演習	グループエクササイズ指導の準備① グループエクササイズのプログラム作成における留意事項		学んだことを振り返る		
3		演習	グループエクササイズ指導の準備② 動きの事前練習、音楽の準備、用具の準備、環境の準備、指導前の準備		学んだことを振り返る		
4		演習	グループエクササイズ指導の実際① 指導の循環、コミュニケーションスキル		学んだことを振り返る		
5		演習	グループエクササイズ指導の実際② 動きの学習段階、指導者の向きと立ち位置		学んだことを振り返る		
6		演習	グループエクササイズ指導の実際③ ウォームアップとクールダウン		学んだことを振り返る		
7		演習	グループエクササイズ指導の実際④ ウォームアップとクールダウン、安全管理		学んだことを振り返る		
8		演習	指導者の動き		学んだことを振り返る		
9		演習	グループエクササイズのクラス運営① ホスピタリティとリーダーシップ		学んだことを振り返る		
10		演習	グループエクササイズのクラス運営② グループダイナミクス		学んだことを振り返る		
11		演習	グループエクササイズのクラス運営③ 運動への動機づけ		学んだことを振り返る		
12		演習	グループエクササイズのクラス運営④ 自己点検・評価(振り返りと課題)		学んだことを振り返る		
13		演習	グループエクササイズフィットネスインストラクターのプロになるための心得		学んだことを振り返る		
14		試験	試験				
15		演習	まとめ				
準備学習 時間外学習							
【使用教科書・教材・参考書】 □							
グループエクササイズ指導理論							

科目名 (英)	ADI養成講座 (Class for ADI Test)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	岡本真紀子
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 曜日・時限 水曜・3,4限
教員の略歴	エアロビクスインストラクターとしてフィットネスクラブ等で活躍						
授業の学習内容	エアロビックダンスエクササイズインストラクターの資格について説明できる。 資格試験に求められる課題が答えられる。						
到達目標	参加者の健康レベルの維持・向上を目指し、集団での運動指導ができる。 エアロビックダンスエクササイズインストラクターの資格取得する。 音楽を使った有酸素運動の指導ができる。						
評価方法と基準	1) 筆記試験30% 2) 実技試験30% 3) 出席状況40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ADBI試験の概要説明 「課題Ⅰ」規定動作 実践	学んだことを振り返る
2		演習	「課題Ⅰ」規定動作 実践とドリル(良い動きとは・・・姿勢と動作表現) 「課題Ⅱ」指導実践 (適切な姿勢と動作について)	学んだことを振り返る
3		演習	「課題Ⅰ」規定動作 実践練習(動作表現と明確な動き) 「課題Ⅱ」指導実践 (聞き取りやすい話し方)	学んだことを振り返る
4		演習	「課題Ⅰ」規定動作 (安全性に関する注意)指示のタイミング 「課題Ⅱ」指導実践 ドリル	学んだことを振り返る
5		演習	「課題Ⅰ・Ⅱ」 総合練習1 (試験の基準を目安にする)	学んだことを振り返る
6		演習	「課題Ⅰ・Ⅱ」 総合練習2	学んだことを振り返る
7		演習	ADI 試験の概要説明 運動強度の考え方(強度の要因を理解する)	学んだことを振り返る
8		演習	動きのつなぎについて(下肢、上肢)	学んだことを振り返る
9		演習	安全性に配慮したプログラムの考え方、コンビネーション、リニアのサンプルレッスン受講	学んだことを振り返る
10		演習	コンビネーションでの運動強度変換(強度を上げる、下げる)	学んだことを振り返る
11		演習	リニアでの運動強度変換(強度を上げる、下げる)	学んだことを振り返る
12		演習	指導の循環を使った指導練習①	学んだことを振り返る
13		演習	指導の循環を使った指導練習②	学んだことを振り返る
14		演習	ADI 試験対策 総合練習1	
15		演習	ADI 試験対策 総合練習2	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
エアロビックダンスエクササイズ指導理論				

科目名 (英)	AQWI・AQDI養成講座 (Class for AQWI・AQDI Test)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	金森千穂
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分 曜日・時限	後期 集中
教員の略歴	JAFA-GFIEガゼミナー シナプソロジーアドバンス教育トレーナー 介護予防運動指導員 バランスコーディネーション教育トレーナー 健康運動実践指導者						
授業の学習内容	水中ウォーキングエクササイズインストラクター、アクアダンスエクササイズインストラクターの資格について説明できる。 資格試験に求められる課題が答えられる。						
到達目標	参加者の健康レベルの維持・向上を目指し、集団での運動指導ができる。 水中ウォーキングエクササイズインストラクター、アクアダンスエクササイズインストラクターの資格取得する。 水中での安全な有酸素運動の指導ができる。						
評価方法と基準	1) 筆記試験30% 2) 実技試験30% 3) 出席状況40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	AQWI試験概要	
2		演習	AQWBI 課題Ⅰ、課題Ⅱ	学んだことを練習しておく
3		演習	AQWI 課題Ⅰ、課題Ⅱ	学んだことを練習しておく
4		演習	実践	学んだことを練習しておく
5		演習	AQDI試験概要	学んだことを練習しておく
6		演習	AQDBI 課題Ⅰ、課題Ⅱ	学んだことを練習しておく
7		演習	AQDI 課題	学んだことを練習しておく
8		演習	実践	学んだことを練習しておく
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				

科目名 (英)	REI・SEI養成講座 (Class for REI・SEI Test)		必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	金森千穂
	学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分 曜日・時限	後期 集中
教員の略歴	JAF A-GFIエグゼグミナー シナプソロジーアドバンス教育トレーナー 介護予防運動指導員 バランスコーディネーション教育トレーナー 健康運動実践指導者							
授業の学習内容	レジスタンスエクササイズインストラクター、ストレッチエクササイズインストラクターの資格について説明できる。 資格試験に求められる課題が答えられる。							
到達目標	参加者の健康レベルの維持・向上を目指し、集団での運動指導ができる。 レジスタンスエクササイズインストラクター、ストレッチエクササイズインストラクターの資格取得する。 陸上での安全な運動の指導ができる。							
評価方法と基準	1) 筆記試験30% 2) 実技試験30% 3) 出席状況40%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	REI試験概要	
2		演習	REBI 課題Ⅰ、課題Ⅱ	学んだことを練習しておく
3		演習	REI 課題Ⅰ、課題Ⅱ	学んだことを練習しておく
4		演習	実践	学んだことを練習しておく
5		演習	SEI試験概要	学んだことを練習しておく
6		演習	SEBI 課題Ⅰ、課題Ⅱ	学んだことを練習しておく
7		演習	SEI 課題Ⅰ、課題Ⅱ	学んだことを練習しておく
8		演習	実践	学んだことを練習しておく
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
レジスタンスエクササイズ指導理論、ストレッチエクササイズ指導理論				

科目名 (英)	介護職員初任者研修 (Home Helper Course)		必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	藤村真仁
	学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	後期 集中
教員の略歴	福岡大学体育学部卒業後、専門学校にてスポーツ分野の授業を担当。健康運動指導士 仙台医健・スポーツ専門学校専任教員							
授業の学習内容	介護職員初任者研修での受講カリキュラムとして定められている内容を学ぶ。							
到達目標	介護職員初任者研修を修了できる。 介護の現場で仕事ができる。							
評価方法と基準	1) 出席状況60% 2) 介護職員初任者研修修了40%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	職務の理解	
2		演習	職務の理解	学んだことを練習しておく
3		演習	職務の理解	学んだことを練習しておく
4		演習	職務の理解	学んだことを練習しておく
5		演習	介護の基本	学んだことを練習しておく
6		演習	介護の基本	学んだことを練習しておく
7		演習	介護における尊厳の保持・自立支援	学んだことを練習しておく
8		演習	介護・福祉サービスの理解と医療との連携①	学んだことを練習しておく
9		演習	老化と理解①	学んだことを練習しておく
10		演習	認知症の理解① 介護・福祉サービスの理解と医療との連携②	学んだことを練習しておく
11		演習	障害の理解	学んだことを練習しておく
12		演習	老化の理解②	学んだことを練習しておく
13		演習	認知症の理解②	学んだことを練習しておく
14		演習	介護におけるコミュニケーション技術	学んだことを練習しておく
15		演習	介護の基本的な考え方	学んだことを練習しておく
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				



科目名 (英)	介護職員初任者研修 (Home Helper Course)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	藤村真仁
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	後期 集中
教員の略歴	福岡大学体育学部卒業後、専門学校にてスポーツ分野の授業を担当。健康運動指導士 仙台医健・スポーツ専門学校専任教員						
授業の学習内容	介護職員初任者研修での受講カリキュラムとして定められている内容を学ぶ。						
到達目標	介護職員初任者研修を修了できる。 介護の現場で仕事ができる。						
評価方法と基準	1) 出席状況60% 2) 介護職員初任者研修修了40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	介護に関するところの仕組みの基礎的理解	学んだことを練習しておく
2		演習	介護に関するからだの仕組みの基礎的理解	学んだことを練習しておく
3		演習	介護に関するからだの仕組みの基礎的理解	学んだことを練習しておく
4		演習	介護に関するからだの仕組みの基礎的理解	学んだことを練習しておく
5		演習	介護に関するからだの仕組みの基礎的理解	学んだことを練習しておく
6		演習	死にゆく人に関した ところからだのしくみと終末期介護	学んだことを練習しておく
7		演習	生活と家事	学んだことを練習しておく
8		演習	快適な居住環境整備と介護	学んだことを練習しておく
9		演習	介護過程の基礎的理解	学んだことを練習しておく
10		演習	介護過程の基礎的理解	学んだことを練習しておく
11		演習	睡眠に関した ところからだのしくみと自立に向けた介護	学んだことを練習しておく
12		演習	睡眠に関した ところからだのしくみと自立に向けた介護	学んだことを練習しておく
13		演習	睡眠に関した ところからだのしくみと自立に向けた介護	学んだことを練習しておく
14		演習	睡眠に関した ところからだのしくみと自立に向けた介護	学んだことを練習しておく
15		演習	睡眠に関した ところからだのしくみと自立に向けた介護	学んだことを練習しておく
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				



科目名 (英)	介護職員初任者研修 (Home Helper Course)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	藤村真仁
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	後期 集中
教員の略歴	福岡大学体育学部卒業後、専門学校にてスポーツ分野の授業を担当。健康運動指導士 仙台医健・スポーツ専門学校専任教員						
授業の学習内容	介護職員初任者研修での受講カリキュラムとして定められている内容を学ぶ。						
到達目標	介護職員初任者研修を修了できる。 介護の現場で仕事ができる。						
評価方法と基準	1) 出席状況60% 2) 介護職員初任者研修修了40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	移動・移乗に関する ところとからだの仕組みと自立に向けた介護	学んだことを練習しておく
2		演習	移動・移乗に関する ところとからだの仕組みと自立に向けた介護	学んだことを練習しておく
3		演習	移動・移乗に関する ところとからだの仕組みと自立に向けた介護	学んだことを練習しておく
4		演習	移動・移乗に関する ところとからだの仕組みと自立に向けた介護	学んだことを練習しておく
5		演習	移動・移乗に関する ところとからだの仕組みと自立に向けた介護	学んだことを練習しておく
6		演習	食事に関する ところとからだの仕組みと自立に向けた介護	学んだことを練習しておく
7		演習	食事に関する ところとからだの仕組みと自立に向けた介護	学んだことを練習しておく
8		演習	食事に関する ところとからだの仕組みと自立に向けた介護	学んだことを練習しておく
9		演習	食事に関する ところとからだの仕組みと自立に向けた介護	学んだことを練習しておく
10		演習	食事に関する ところとからだの仕組みと自立に向けた介護	学んだことを練習しておく
11		演習	整容に関する ところとからだの仕組みと自立に向けた介護	学んだことを練習しておく
12		演習	整容に関する ところとからだの仕組みと自立に向けた介護	学んだことを練習しておく
13		演習	整容に関する ところとからだの仕組みと自立に向けた介護	学んだことを練習しておく
14		演習	整容に関する ところとからだの仕組みと自立に向けた介護	学んだことを練習しておく
15		演習	整容に関する ところとからだの仕組みと自立に向けた介護	学んだことを練習しておく
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				



科目名 (英)	介護職員初任者研修 (Home Helper Course)		必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	藤村真仁
	学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	後期 集中
教員の略歴	福岡大学体育学部卒業後、専門学校にてスポーツ分野の授業を担当。健康運動指導士 仙台医健・スポーツ専門学校専任教員							
授業の学習内容	介護職員初任者研修での受講カリキュラムとして定められている内容を学ぶ。							
到達目標	介護職員初任者研修を修了できる。 介護の現場で仕事ができる。							
評価方法と基準	1) 出席状況60% 2) 介護職員初任者研修修了40%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	排泄に関する こととからだの仕組みと自立に向けた介護	学んだことを練習しておく
2		演習	排泄に関する こととからだの仕組みと自立に向けた介護	学んだことを練習しておく
3		演習	排泄に関する こととからだの仕組みと自立に向けた介護	学んだことを練習しておく
4		演習	排泄に関する こととからだの仕組みと自立に向けた介護	学んだことを練習しておく
5		演習	排泄に関する こととからだの仕組みと自立に向けた介護	学んだことを練習しておく
6		演習	入浴、清潔保持に関する こととからだの仕組みと自立に向けた介護	学んだことを練習しておく
7		演習	入浴、清潔保持に関する こととからだの仕組みと自立に向けた介護	学んだことを練習しておく
8		演習	入浴、清潔保持に関する こととからだの仕組みと自立に向けた介護	学んだことを練習しておく
9		演習	入浴、清潔保持に関する こととからだの仕組みと自立に向けた介護	学んだことを練習しておく
10		演習	入浴、清潔保持に関する こととからだの仕組みと自立に向けた介護	学んだことを練習しておく
11		演習	総合生活支援技術演習	学んだことを練習しておく
12		演習	総合生活支援技術演習	学んだことを練習しておく
13		演習	総合生活支援技術演習	学んだことを練習しておく
14		演習	総合生活支援技術演習	学んだことを練習しておく
15		演習	就業への備えと研修終了後における 継続的な研修	学んだことを練習しておく
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				



科目名 (英)	アスリートフードマイスター講座 (Athlete Food Meister)		必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	藤村真仁
	学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	集中
教員の略歴	福岡大学体育学部卒業後、専門学校にてスポーツ分野の授業を担当。健康運動指導士 仙台医健・スポーツ専門学校専任教員							
授業の学習内容	アスリートに必要な食事に対する知識が説明でき、その知識を競技選手に実践指導ができる。							
到達目標	アスリートフードマイスター3級の資格取得を通して、アスリートをよく深く理解し、食のサポートができるようになる。							
評価方法と基準	アスリートフードマイスター3級の認定者に単位を認定する。							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	競技者に対する食事の指導ができる①	学んだことを振り返る
2		演習	競技者に対する食事の指導ができる②	学んだことを振り返る
3		演習	競技者に対する食事の指導ができる③	学んだことを振り返る
4		講義	アスリートの食事のあり方を説明できる	学んだことを振り返る
5		講義	アスリートに必要な食材の選び方を説明できる	学んだことを振り返る
6		講義	食事計画を立てることができる	学んだことを振り返る
7		講義	対象者やタイミングに合わせた献立が作成できる	学んだことを振り返る
8		試験	試験	学んだことを振り返る
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
準備学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				



科目名 (英)	幼児体育指導者検定2級 (Infant Physical Education Leaders Level 2 Course)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	藤村真仁
	学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	福岡大学体育学部卒業後、専門学校にてスポーツ分野の授業を担当。健康運動指導士 仙台医健・スポーツ専門学校専任教員						
授業の学習内容	幼児体育指導者に必要な知識が説明できる。 マット運動の手本や補助ができる。 とび箱の手本や補助ができる。 リズム体操の手本や指導ができる。 なわとびの手本や指導ができる。						
到達目標	幼児体育指導者検定2級の取得を通して、子どもに対して、体育や運動遊びを「たのしく」「わかりやすく」「安全に」指導ができる。						
評価方法と基準	資格取得60% 出席40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	幼児体育指導者に必要な知識が説明できる①	学んだことを振り返る
2		講義	幼児体育指導者に必要な知識が説明できる②	学んだことを振り返る
3		講義	幼児体育が実践指導できる① マット・とび箱・リズム体操・なわとび	学んだことを反復する
4		演習	幼児体育が実践指導できる② マット・とび箱・リズム体操・なわとび	学んだことを反復する
5		演習	幼児体育が実践指導できる③ マット・とび箱・リズム体操・なわとび	学んだことを反復する
6		演習	幼児体育が実践指導できる④ マット・とび箱・リズム体操・なわとび	学んだことを反復する
7		試験	試験	
8		試験	試験	
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				

科目名 (英)	障がい者スポーツ初級指導員講座 (Training for the Disabilities)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	佐藤一樹
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 集中
教員の略歴	上級障がい者スポーツ指導員、障がい者フライングディスク第1種審判員						
授業の学習内容	「初級障がい者スポーツ指導員」養成講習会での講習科目に沿い、障がい者福祉施策と障がい者スポーツ、ボランティア論、障がい者スポーツの意義と理念、安全管理、障がいの理論とスポーツ、公認障がい者スポーツ指導者制度、全国障害者スポーツ大会の概要、障がいに応じたスポーツの工夫・実施、障がい者との交流について学習し、説明・実践ができるようになる。						
到達目標	「初級障がい者スポーツ指導員」として認定される。 障がい者の基本内容を理解し、スポーツの導入に必要な基本的知識・技術を身につけ、実践にあたっては、健康や安全管理を重視したしどろができる。さらに、地域の大会や行事に参加すると共に、指導員組織の事業にも積極的に参加するなど地域の障がい者スポーツの振興を支えることができる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト30% 2) 出席状況30% 3) 実技演習30% 4) ボランティア意欲10% ※その他、障がいに応じたスポーツ・レクリエーションの工夫について加味します。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	障がい者の福祉施策と障がい者スポーツについて説明できる	学んだことを振り返る
2		演習	ボランティア論について説明できる ～視覚障害者スイマー～	学んだことを振り返る
3		演習	障がい者スポーツの意義と理念について説明できる	学んだことを振り返る
4		演習	障がいの理解とスポーツ: 身体障害 ウイニングパス を体験する	学んだことを振り返る
5		演習	障がいに応じたスポーツの工夫・実施ができる(1)	学んだことを振り返る
6		演習	障がいに応じたスポーツの工夫・実施ができる(2)	学んだことを振り返る
7		演習	障がい者との交流をする	学んだことを振り返る
8		演習	障がい者の理解とスポーツ: 視覚障害	学んだことを振り返る
9		演習	安全管理ができる	学んだことを振り返る
10		演習	全国障がい者スポーツ大会の概要が説明できる	学んだことを振り返る
11		演習	障がいの理解とスポーツ: 精神障害 バレーボール を体験する	学んだことを振り返る
12		演習	障がいの理解とスポーツ: 脳性麻痺 ポッチャ を体験する	学んだことを振り返る
13		演習	障がい者スポーツ指導者制度について説明できる	学んだことを振り返る
14		試験	定期試験	
15		演習	試験解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	キャンプインストラクター講座 (Camp Instructor)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	藤村真仁
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 集中
学科・コース	スポーツ科学科						
教員の略歴	福岡大学体育学部卒業後、専門学校にてスポーツ分野の授業を担当。健康運動指導士 仙台医健・スポーツ専門学校専任教員						
授業の学習内容	「キャンプインストラクター」養成講習会での講習での学習内容に基づき、キャンプの特性、キャンプの対象、キャンプの指導、キャンプの安全についての理論が説明できる。また、キャンプの安全、キャンプの生活技術、さまざまなアクティビティーを実践できる。						
到達目標	キャンプの良さを説明できる。グループカウンセラーの役割を説明できる キャンプインストラクターは、キャンプでの活動を指導できる能力を持った指導者である。小集団の生活を指導する基礎的な知識、技術、考え方を習得していると認定される者に付与されるがその資格が取得できる						
評価方法と基準	出席、受講、筆記・実技テストを養成講習会に合わせて評価を行う。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	キャンプの特性について説明できる	学習したことを振り返る
2		講義	キャンプの対象について説明できる①	学習したことを振り返る
3		講義	キャンプの対象について説明できる②	学習したことを振り返る
4		講義	キャンプの指導について説明できる①	学習したことを振り返る
5		講義	キャンプの指導について説明できる②	学習したことを振り返る
6		講義	キャンプの安全について説明できる①	学習したことを振り返る
7		講義	キャンプの安全について説明できる②	学習したことを振り返る
8		演習	キャンプの安全について実践できる	学習したことを振り返る
9		演習	キャンプの生活技術を実践できる①	学習したことを振り返る
10		演習	キャンプの生活技術を実践できる②	学習したことを振り返る
11		演習	キャンプの生活技術を実践できる③	学習したことを振り返る
12		演習	キャンプ活動でのさまざまなアクティビティーを実践できる①	学習したことを振り返る
13		演習	キャンプ活動でのさまざまなアクティビティーを実践できる②	学習したことを振り返る
14		演習	キャンプ活動でのさまざまなアクティビティーを実践できる③	学習したことを振り返る
15		試験	試験	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	進路指導Ⅱ (Career GuidanceⅡ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	太田充保
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	前期 木曜・2限
教員の略歴	仙台医健・スポーツ専門学校専任教員						
授業の学習内容	履歴書を作成することができる。 就職受験の際に必要な企業への提出物が準備できる。 面接でのマナーが守れる。 面接で自分の魅力が表現できる。 内定後に企業への挨拶ができ、社会人になる上での気構え・心構えが説明できる。						
到達目標	希望する就職先から内定をいただく。 それに必要な、履歴書や必要な書類が作成・準備できる。 また、面接時に社会人としてのマナーが守れ、自分の魅力が表現できる。						
評価方法と基準	1) 出席状況 60% 2) 提出物 40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	履歴書を書くことができる	学んだことを振り返る
2		講義	履歴書を書くことができる	学んだことを振り返る
3		講義	履歴書を書くことができる	学んだことを振り返る
4		講義	企業への提出書類が準備できる	学んだことを振り返る
5		講義	面接(礼・作法)で自分が表現できる	学んだことを振り返る
6		講義	面接(言葉遣い・答え方)で自分が表現できる	学んだことを振り返る
7		講義	企業へ内定時のお礼ができる	学んだことを振り返る
8		講義	社会人としての気構え・心構えについて説明できる	学んだことを振り返る
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	卒業制作 (graduate study)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	渡邊友朗
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	通年
教員の略歴	2006年4月～20017年12月までフィットネスクラブに所属 仙台医健・スポーツ専門学校専任教員						
授業の学習内容	2年間で学習した内容について、個人やグループでテーマを設定し、課題に取り組む。						
到達目標	①グループで目標を立てられる ②グループで計画を立てられる ③結果についてまとめることができる ④パワーポイントの作成ができる ⑤プレゼンテーションができる						
評価方法と基準	1)出席数50% 2)作成したパワーポイント25% 3)プレゼンテーション25%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	目標を立てられる	資料まとめ
2		演習	計画を立てられる	資料まとめ
3		演習	活動について実施できる	資料まとめ
4		演習	活動について実施できる	資料まとめ
5		演習	活動について実施できる	資料まとめ
6		演習	活動について実施できる	資料まとめ
7		演習	活動について実施できる	資料まとめ
8		演習	活動について実施できる	資料まとめ
9		演習	活動について実施できる	資料まとめ
10		演習	活動について実施できる	資料まとめ
11		演習	活動について実施できる	資料まとめ
12		演習	活動について実施できる	資料まとめ
13		演習	活動について実施できる	資料まとめ
14		演習	活動について実施できる	資料まとめ
15		演習	活動について実施できる	資料まとめ
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				

科目名 (英)	卒業制作 (graduate study)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	渡邊友朗
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	通年
教員の略歴	2006年4月～20017年12月までフィットネスクラブに所属 仙台医健・スポーツ専門学校専任教員						
授業の学習内容	2年間で学習した内容について、個人やグループでテーマを設定し、課題に取り組む。						
到達目標	①グループで目標を立てられる ②グループで計画を立てられる ③結果についてまとめることができる ④パワーポイントの作成ができる ⑤プレゼンテーションができる						
評価方法と基準	1)出席数50% 2)作成したパワーポイント25% 3)プレゼンテーション25%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
16		演習	活動について実施できる	資料まとめ
17		演習	活動について実施できる	資料まとめ
18		演習	活動について実施できる	資料まとめ
19		演習	活動について実施できる	資料まとめ
20		演習	活動について実施できる	資料まとめ
21		演習	活動について実施できる	資料まとめ
22		演習	活動について実施できる	資料まとめ
23		演習	活動について実施できる	資料まとめ
24		演習	活動について実施できる	資料まとめ
25		演習	活動について実施できる	資料まとめ
26		演習	活動について実施できる	資料まとめ
27		演習	活動について実施できる	資料まとめ
28		演習	活動について実施できる	資料まとめ
29		演習	活動について実施できる	資料まとめ
30		演習	活動について実施できる	資料まとめ
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				

科目名 (英)	卒業制作 (graduate study)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	渡邊友朗
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	通年
教員の略歴	2006年4月～2007年12月までフィットネスクラブに所属 仙台医健・スポーツ専門学校専任教員						
授業の学習内容	2年間で学習した内容について、個人やグループでテーマを設定し、課題に取り組む。						
到達目標	①グループで目標を立てられる ②グループで計画を立てられる ③結果についてまとめることができる ④パワーポイントの作成ができる ⑤プレゼンテーションができる						
評価方法と基準	1)出席数50% 2)作成したパワーポイント25% 3)プレゼンテーション25%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
16		演習	活動について実施できる	資料まとめ
17		演習	活動について実施できる	資料まとめ
18		演習	活動について実施できる	資料まとめ
19		演習	活動について実施できる	資料まとめ
20		演習	活動について実施できる	資料まとめ
21		演習	活動について実施できる	資料まとめ
22		演習	活動について実施できる	資料まとめ
23		演習	活動について実施できる	資料まとめ
24		演習	活動について実施できる	資料まとめ
25		演習	活動について実施できる	資料まとめ
26		演習	活動について実施できる	資料まとめ
27		演習	活動について実施できる	資料まとめ
28		演習	活動について実施できる	資料まとめ
29		演習	活動について実施できる	資料まとめ
30		演習	活動について実施できる	資料まとめ
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				

科目名 (英)	総合演習 (Comprehensive Seminar)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	藤村真仁
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 集中
教員の略歴	福岡大学体育学部卒業後、専門学校にてスポーツ分野の授業を担当。健康運動指導士 仙台医健・スポーツ専門学校専任教員						
授業の学習内容	これまでの授業や、実習などで学んだ知識や技術をもとに、現場を想定して計画を立て、実践する。それを振り返り、また実践する。						
到達目標	自分が学んだことをまとめ、テーマを決めて指導計画を立て対象者を想定し実践することができる。また、その結果をもとに改善点をまとめ、再度実践指導することができる。						
評価方法と基準	1) 出席状況 60% 2) 提出物 20% 3) 指導実践 20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	これまで学んだことをまとめることができる	
2		演習	これまで学んだことをまとめることができる	
3		演習	現場を想定した指導プランを立てることができる	学んだことを振り返る
4		演習	現場を想定した指導プランを立てることができる	学んだことを振り返る
5		演習	現場を想定した指導プランを立てることができる	学んだことを振り返る
6		演習	現場を想定した指導プランを立てることができる	学んだことを振り返る
7		演習	立てた指導プランをもとに実践することができる	学んだことを振り返る
8		演習	立てた指導プランをもとに実践することができる	学んだことを振り返る
9		演習	立てた指導プランをもとに実践することができる	学んだことを振り返る
10		演習	実践したことを振り返り、改善点を上げることができる	学んだことを振り返る
11		演習	立てた指導プランをもとに実践することができる	学んだことを振り返る
12		演習	立てた指導プランをもとに実践することができる	学んだことを振り返る
13		演習	立てた指導プランをもとに実践することができる	学んだことを振り返る
14		演習	実践したことを振り返り、改善点を上げることができる	学んだことを振り返る
15		演習	この授業で学んだことを説明できる	学んだことを振り返る
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	アスレティックリハビリテーションⅡ (Athletic RehabilitationⅡ)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	千葉渉
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 金曜1.2限
学科・コース	スポーツ科学科						
教員の略歴	医療法人松田会 松田病院にて理学療法士として勤務、日本スポーツ協会アスレティックトレーナー						
授業の学習内容	子どもから高齢者の健康維持の増進や、競技者の競技復帰において基盤となるアスレティックリハビリテーション、各療法の知識、技術を習得する。傷害別のアスレティックリハビリテーションプログラムの計画、立案、実践の方法を理解する。						
到達目標	①アスレティックリハビリテーションに必要な知識、技術を理解する ②傷害別アスレティックリハビリテーションプログラムの計画、立案ができるようになる ③傷害別アスレティックリハビリテーションプログラムを実践できるようになる						
評価方法と基準	1)定期試験60% 2)レポート10% 3)出席30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	体幹部の解剖学的運動を理解する	体幹部の機能解剖をまとめる
2		演習	体幹部のアスレティックリハビリテーションを理解する	体幹部のアスレティックリハビリテーションをまとめる
3		演習	体幹部の関節可動域測定を理解する	体幹部の関節可動域測定の方法をまとめる
4		演習	体幹部のMMTを理解する	体幹部のMMTをまとめる
5		演習	まとめ	
6		演習	頸部の解剖学的運動を理解する	頸部の機能解剖をまとめる
7		演習	頸部のアスレティックリハビリテーションを理解する	頸部のアスレティックリハビリテーションをまとめる
8		演習	頸部の関節可動域測定を理解する	頸部の関節可動域測定の方法をまとめる
9		演習	頸部のMMTを理解する	頸部のMMTをまとめる
10		演習	まとめ	
11		演習	傷害別アスレティックリハビリテーションの計画立案①を理解する	体幹のアスレティックリハビリテーションのプログラミングと実践をまとめる
12		演習	傷害別アスレティックリハビリテーションの計画立案②を理解する	上肢のアスレティックリハビリテーションのプログラミングと実践をまとめる
13		演習	傷害別アスレティックリハビリテーションの計画立案③を理解する	下肢のアスレティックリハビリテーションのプログラミングと実践をまとめる
14		試験	定期試験	
15		演習	まとめ	
準備学習 時間外学習			授業の復習として各講義のポイントをまとめる	
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	救急処置法Ⅱ	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	早坂ひとみ
	(Emergency Treatment and Lifesavin)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 木曜5限
学科・コース	スポーツ科学科						
教員の略歴	専門学校卒業後柔道整復師として勤務。柔道整復師・日本スポーツ協会アスレティックトレーナー JATI-AATI						
授業の学習内容	救急処置の目的と意義を理解し、説明ができる。 更に基礎的な救急処置を習得し、アスレティックトレーナーとしての役割を理解し、説明ができる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 救急処置の基本的知識を理解する。 スポーツ現場における傷害に対する救急処置を理解し、実施できる。 現場における救急体制の重要性と計画性を理解する。 						
評価方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> 筆記テスト 50% 実技 50% 						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	救急処置基礎およびスポーツ現場における救急処置の意義、目的について説明できる	学んだことを振り返る
2		演習	救急医療の現状の理解、重要性について説明できる	学んだことを振り返る
3		演習	怪我の評価と観察の重要性について説明できる	学んだことを振り返る
4		演習	外傷への応急処置について説明できる	学んだことを振り返る
5		演習	緊急時の救命処置について説明できる①	学んだことを振り返る
6		演習	緊急時の救命処置について説明できる②	学んだことを振り返る
7		演習	心肺蘇生法・固定法の実践について説明できる①	学んだことを振り返る
8		演習	心肺蘇生法・固定法の実践について説明できる②	学んだことを振り返る
9		演習	心肺蘇生法・固定法の実践について説明できる③	学んだことを振り返る
10		演習	心肺蘇生法・固定法の実践について説明できる④	学んだことを振り返る
11		演習	心肺蘇生法・固定法の実践について説明できる⑤	学んだことを振り返る
12		演習	内科的疾患への救急処置について説明できる	学んだことを振り返る
13		演習	現場における救急体制について説明できる	学んだことを振り返る
14		試験	学習した内容の問題に答えられる	
15		演習	学習した内容の問題に答えられる	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
アスレティックトレーナー専門科目テキスト 応急処置				